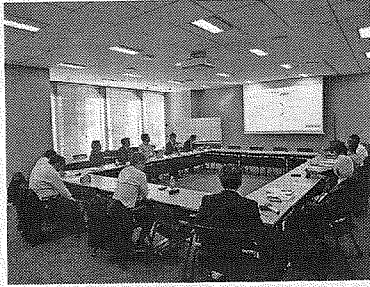


「新エネルギー革命会」から

「エネマネ研究会」へ 団体名称変更へ

地域の電気工事店や家電店、設備店などである会員企業が、地元を根ざした「エネルギーマネジメント屋(エネマネ屋)」として活躍することを目指す新エネルギー革命会は、10月26日、2024年度の方針発表会を開催し、新会長の就任および名称の変更を発表した。

新会長に就任したのは、福田電子代表取締役の福田勝氏。福田電子は茨城県守谷市にある従業員12名の会社で、地域密着型の電気工事会社として様々な工事に対応している。特徴は自社ウェブサイトで新規顧客を獲



新エネルギー革命会方針発表会

得していることで、顧客数は現在6200件を超えており、ITに非常に強い。退任する恒石隆顕前会長(恒電社代表取締役)は、福田新会長を「様々な人物を革命会に勧誘してきたが、最大の功績は福田勝を入会させたことか

も全て自社で構築し、さらに地域で新エネルギー事業による貢献を目指す「新エネルギー革命会」へという会の歴史は、固定価格買取制度から始まった新エネルギービジネスの変遷そのものだ。FITにより太陽光発電が急拡大したが、安定した

「職人革命グループ」から、太陽光発電システム

の販売・施工店の全国組織である「職人革命会」へ、さらに地域で新エネルギー事業による貢献を目指す「新エネルギー革命会」へという会の歴史は、固定価格買取制度から始まった新エネルギービジネスの変遷そのものだ。FITにより太陽光発電が急拡大したが、安定した

この「技術力」と「提案力」を、定期的な勉強会で養成してきたのが「革命会」だ。この2つを基礎に、福田新会長は「恒石前会長と学んできたエネルギーマネジメントビジネスをさらに推進させるため、デジタルをプラスする。デジタルツールで自社をアップデート

トできる仕組みを共に構築していきたい」と話す。原油高や円安といった国際的な状況、また人手不足といった国内の問題など、経営課題は山積している。会員が持つ技術力と提案力をエネルギーマネジメントビジネスで発揮するために、デジタル化によって地力を高めて課題を解決していく。具体的には従来の活動に加え、WEB・SNS・動画といったデジタルツールを用いた集客や、バックオフィスの

また新年度のスタートに当たり、名称を「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた

「再エネ発電+αの付加価値を 地域の産業から実現」後押し

総合・太陽光

成長のためには最新情報の入手と技術の向上が必要で、それが業界の健全な発展にも繋がっている。FIT価格が低下してからは、自家消費型太陽光や蓄電池・V2Hといったエネルギーマネジメントシステムについて知識と技術を蓄え、いかすかが重要になってきている。

また新年度のスタートに当たり、名称を「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた

「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた



就任の挨拶を行う福田勝会長

「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた

荒木 催。小水力発電の関係者を中心に、

ンパクト発電システムに設置可能な二

成長のためには最新情報の入手と技術の向上が必要で、それが業界の健全な発展にも繋がっている。FIT価格が低下してからは、自家消費型太陽光や蓄電池・V2Hといったエネルギーマネジメントシステムについて知識と技術を蓄え、いかすかが重要になってきている。

また新年度のスタートに当たり、名称を「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた

「エネマネ研究会」(略称:エマケン)と改める。2024年度の活動方針は「エネルギーマネジメントビジネスを『デジタル提案力』で実現するた